12 つくる責任 つかう責任

12.つくる責任、つかう責任

湘南藤沢キャンパス（SFC）において、サントリーグループと協働し、「ボトルtoボトル」水平リサイクルを開始

湘南藤沢キャンパス（SFC）は、サントリーグループと連携し、キャンパス内で回収された使用済みペットボトルを新たなペットボトルへと再生する「ボトルtoボトル」水平リサイクルを、2025年9月より開始しました。本取り組みは、使用済み製品を同一種類の製品へと再資源化するもので、慶應義塾内では初の試みとなります。

今回の連携は、「リサイクル適性が高く、再資源化の仕組みが整っているペットボトルを資源として循環させ、持続可能な社会の実現に貢献したい」という両者の思いが一致したことにより実現しました。

SFCでは、2022年11月に2030年に向けたカーボンニュートラル目標を発表し、自然エネルギー大学リーグに加盟しました。さらに2023年からは、サステイナブルキャンパスプログラムを開始し、キャンパスの持続可能性向上をサステナブルな地域づくりへとつなげることを目指してきました。同プログラムは、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、湘南藤沢中等部・高等部が連携して進める教育研究プロジェクトであり、「カーボンニュートラル」、「資源循環」、「自然環境」、「健康と地域」、「食と農」、「スチューデントビルドキャンパス※」、「高等部における環境プロジェクト」の7つで構成されています。あわせて、2023年以降はキャンパス内の分別方法と分別ボックスのデザインを一新し、学生主体で分別率向上に取り組んできました。特にペットボトルについては、キャップ・ラベル・ボトル本体の3分別を徹底し、資源としての品質向上を図っています。

一方、サントリーグループは、2012年に国内清涼飲料業界で初めてリサイクル素材100%のペットボトルを導入し、2030年までにペットボトルの「100%サステナブル化」を達成することを目指して、水平リサイクルの実用化を進めてきました。

今回の取り組みにより、SFCで丁寧に分別されたペットボトルの価値を活かし、より高度な資源循環を実現します。今後は、学生による意識啓発や行動変容の促進を通じて分別率のさらなる向上を図るとともに、キャンパスの持続可能性向上、地域との連携による社会課題解決に取り組んでいきます。



※学生・教職員・卒業生が協働し創り上げる滞在型教育・研究施設

信濃町メディアセンター（図書館）にウォーターサーバーを設置

信濃町キャンパスのメディアセンターでは、学生の多様な「学び」をサポートする環境整備の一環として、2026年3月、利用者からの要望が多かったウォーターサーバーを1階カウンター前に設置しました。マイボトルを持参すれば誰でも気軽に給水でき、館内全エリアへ「密閉可能な容器に入った飲物」として持ち込むことが可能です。マイボトルの利用を促進することで、使い捨てペットボトル等の削減にもつながる取り組みです。

慶應義塾では、今後も全キャンパスでのウォーターサーバーの増設や配置見直しを進めるとともに、認知度や使用率の向上に取り組んでいきます。

Hヴィレッジに双子のヤギが入寮―学生主導のヤギプロジェクト―

湘南藤沢キャンパス（SFC）内学生寮「H（イータ）ヴィレッジ」に、双子のヤギ「カイくん」と「マユちゃん」が入寮しました。

本取り組みは、寮生が立ち上げた「ヤギプロジェクト」によるものです。外来種の雑草処理に苦慮していた寮父との会話をきっかけに、雑草を好んで食べるヤギの習性を活かした自然な力による除草の可能性に着目し、企画されました。ヤギの誘致のほか、クラウドファンディング、ヤギ小屋の建設も学生自らが手掛けました。

2頭はHヴィレッジ隣接地での除草を担います。ヤギによる除草は、化学除草剤を用いずに自然の力を活用する方法であり、生態系や土壌の保全にもつながる取り組みとして期待されています。



カイくんとマユちゃん

第24回「森を愛する人々の集い」開催

慶應義塾は、現在全国に義塾所有山林や国有林分収契約山林をあわせ約160ヘクタールにおよぶ山林を保有し、植林・育林活動を行っています。これらの活動を支援する目的で2001年に発足した「福澤育林友の会」主催による「森を愛する人々の集い」が、2025年6月14日に三田キャンパスにて開催されました。当日は同会の会員や学生など、約70名が参加しました。

24回目を迎えた今回は、一ノ瀬友博環境情報学部長が「南三陸慶應の森の自然環境と生物相」と題して登壇しました。講演では、バイオマスや農業、資源循環といった多様な視点から、環境課題の解決を目指す研究や活動が紹介されました。また、大学院生によるポスターセッションも実施され、志津川山林の自然環境と生物相について、活発な意見交換が行われました。



一ノ瀬環境情報学部長による講演

湘南藤沢キャンパス（SFC）2025年度キックオフレクチャー開催

2025年4月7日、湘南藤沢キャンパス（SFC）にて、新入生・在学生を対象に、学問に取り組む姿勢や社会の変化を捉える視点を養うことを目的としたキックオフレクチャーを開催しました。

2025年度は、一般社団法人エシカル協会代表理事の末吉里花氏に「これからの時代に必要なエシカルという“ものさし”」をテーマにご講演いただきました。末吉氏は、自身の経験を踏まえながら、エシカルの考え方や日常で実践できる行動について紹介しました。質疑応答では、学生からエシカルを自分事として捉える方法など多くの質問が寄せられ、持続可能な社会に向けた意識を深める機会となりました。



末吉氏による講演

慶應義塾図書館旧館ナノブロック進呈

2025年11月、慶應義塾では、「KEIOみらいストーリーズ（みらい共創資金）」の寄付特典として、慶應義塾図書館旧館を再現したオリジナルナノブロックを期間限定で進呈しています。1912年に創立50年記念事業の寄付金によって建設された図書館旧館は、国の重要文化財にも指定されている歴史的建築物です。慶應義塾の歴史と伝統を象徴する建物を寄付者への記念品として形にすることで、慶應義塾の文化資源への関心を高めるとともに、学生の学びを支える「社中協力」の精神を次世代へ継承しています。

また、ナノブロックは環境負荷低減にも配慮しています。レンガ部分には製造過程で廃棄される樹脂を活用したリサイクルプラスチックを使用しており、資源の有効活用に貢献しています。特殊な成形技術により、一粒ごとに微妙に異なる色合いが生まれ、本物のレンガ造りを彷彿とさせる世界に一つだけの風合いを楽しめる仕様となっています。



図書館旧館ナノブロック

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議から提出された提言の中から審査を経て採択されたものは、学生が主体となる「塾生会議プロジェクト」として具体化され、様々な活動へと発展していきます。

料理教室プロジェクト

ひとり暮らしによる孤食や、外食が増えた学生へ栄養バランスのとれた健康的な食生活を促すため、履修登録科目には無い「家庭科」として調理を学ぶ場を提供するプロジェクトです。「共に調理し共に食べる」体験を通じた学生同士の交流による心身の健康サポートだけでなく、規格外野菜の活用や無駄を出さない調理方法の習得による環境配慮・フードロス削減も目指しています。

料理教室は、2025年6月11日、11月4日、2026年1月14日の計3回、株式会社グリーンハウス（https://www.greenhouse.co.jp/）の管理栄養士のご協力の下、日吉キャンパスで実施し、延べ71名の学生が参加しました。手軽で実践的なメニュー調理に加え、食材の知識やアレンジ法も学べる内容とし、好評を博しました。また、2025年11月にはさらに、「食のSDGs」をテーマとしたトークイベントも開催し、3名の登壇者に「ビーガン向け和食」について講演していただきました。



料理教室ポスター


調理を行う学生

ごみ箱改革プロジェクト

「『ごみ箱改革』を起点に『持続可能な慶應義塾』を実現する」ことを目指し、「2050年までに慶應義塾のリサイクル率を100%にする」すなわち「ごみ箱の異物混入率を0%にし、ごみを資源として100%活用することで、塾内で資源の循環を達成する」をゴールに掲げているプロジェクトです。

日吉キャンパスを中心に実施してきた、ごみの分別啓発活動を、2025年度は他キャンパスに広げるほか、割り箸回収活動も本格化させ、「より多くの学生・教職員がごみの分別や資源循環を習慣化すること」を目的に活動しました。

2025年10月～2026年1月、三田キャンパスにごみの分別を啓発するポスターを掲示しました。また、2025年10月～2026年2月には、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」に使用済み割り箸回収ボックスを設置し、5カ月で約21,400膳（約85.6kg）の割り箸を回収しました。回収した割り箸は製紙工場に送られ、紙の原料として生まれ変わります。割り箸を資源として活用できるとともに、燃やすごみの削減にもつなげることができました。



ごみ分別啓発ポスター




回収された割り箸

コンタクトケース回収プロジェクト

SDGsゴール12「つくる責任・つかう責任」とゴール14「海の豊かさを守ろう」を実現し、2030年までにプラスチックごみを20%削減することを目指すプロジェクトです。独自のアンケート調査から、学生の約60%が使用していると想定されるコンタクトレンズに着目し、コンタクト空ケース回収ボックスを設置し、常時回収を可能にしました。

昨年度は日吉キャンパスのみに設置していた回収ボックスを、2025年度は日吉・矢上・三田・SFCの4キャンパスに常設しました。また、2025年10月1日～12月31日には、回収量上位者に慶應パーカー、カレッジバッグ、ルーズリーフ等を贈呈するイベントも開催しました。結果として、昨年度2,841個であった回収量を12,000個にまで伸ばすことができ、学生の意識と行動が習慣化してきていることがうかがえました。